

実像

そっくりなんだって僕と君  
奇跡的な出会いを果たして  
声を掛けてしまおうくらい

気も漫ろにする蜜柑の葉  
肩を落とした繭の糸  
朝焼けが君の目を覚ますなら  
夜の静けさに筆を執って

さあ、鏡の前で踊ろう  
見てくれが同じ僕らで  
きつと会うことの無い君と僕  
どちらが実像かを忘れて  
そう、重なることの無い  
反転した世界の君に告ぐ

雨和七瀬

そっくりなんだって僕と君  
何度も何度も別れを惜しんで  
君と会いたくなるくらい

夢追いかけた花の蝶  
夢に潰れた灯火の蛾  
色彩が君を駆り立てるなら  
指の黒いインクを擦り付け

さあ、鏡の前で踊ろう  
「見てくれ」が同じ僕らで  
きつとすれ違い行く君と僕  
どちらが虚像かと疑って  
そう、重なってしまった  
反転した世界の僕の声

君の魂の羽ばたきが  
僕の何気ない羽ばたきが  
いつか誰かの竜巻になるなら  
夜の静けさに筆を執って

さあ、鏡の前で踊ろう  
違う道を進む僕らで  
きつと知らないままの君と僕  
どちらも実像だと信じて  
そう、永遠に重ならない  
同じ世界の僕と君